

# 令和2年度 第3回 いいづな歴史ふれあい館協議会

## 会議録(要旨)

日時：令和3年(2021年)2月26日(金)

10:00~12:00

場所：いいづな歴史ふれあい館 小ホール

富樫館長	<p><b>1 開 会</b></p> <p>これより令和2年度第3回いいづな歴史ふれあい館協議会を開会します。</p>
馬島教育長	<p><b>2 教育長あいさつ</b></p> <p>お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。三寒四温のような日が続き、今日は2.26事件を思い出すような日になりました。町は3月議会が始まり、予算審議がなされます。歴史ふれあい館の事業の予算も通れば、活動をどんどんやっていきたいと思っておりますので、それを念頭に今日もご検討をお願いします。</p>
中村会長	<p><b>3 協議会会長あいさつ</b></p> <p>今日は職務代理の宮本さんをご都合で欠席ですが、一年間ありがとうございました。町制20周年記念を節目として、歴史ふれあい館の新しいあり方について検討していく使命を感じて会議に臨んでおります。コロナ禍で外に行けない中で、足元を見直すようになってきていると思います。たとえば、これまで関心がなかった家族が歴史講座に行ってみようというようになってきたのはその表れかもしれません。「飯綱町の文化財」展の図録編集でも、大事な使命を負っていると感じています。文化財調査委員の皆さんも、今までになく力が入っている状況です。そんなことも含めて、町の良さを再発見していくチャンスにしていけるよう、また5か年計画に良いアイデアを出していただき、どうか主体的に関わっていただけますよう、よろしくをお願いします。</p>
中村	<p><b>4 議 事</b></p> <p>時間も限られていますので、本日は資料4、5のリニューアルに向けた方針案と改善点の中身を詰めていきたいと思っております。では、(1)今年度の事業等の報告を。</p>
富樫	<p><b>(1) 令和2年度の事業等の報告</b></p> <p>まだ1か月を残していますが、今年度の主な事業について報告します。まず新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月から11月にかけて、町主催の行事として計画していた多くの事業が中止や延期となりました。11月末から手探り状態で事業再開をはかり、2月までに3回の歴史講座が開催できました。3回とも町民限定、事前予約制にしましたが、たくさんの方が参加され、定員の満員に近い参加状況になりました。特別展開催は令和3年度に延期し、図録だけを年度内に発行できるよう、文化財調査委員会ご協力をいただき、現在は編集の最終段階に入っています。紀要第8号も3月に発行予定です。星空観望会については、昨年の3月以降中止としています。</p>

中村	他の施設と同じく中止となった事業が多くあったわけですが、歴史講座については、町民限定としたにも関わらず関心が高く、意外に多くの参加者があったようです。いかがでしょうか。
委員	館の来館者の数は前年比でいかがでしょうか。
富樫	まだ集計ができていませんが、かなり減っていることは確かです。
委員	近隣の市町村の施設に学校で見学に行くとか、逆に近隣から飯綱町に見学に来るとか、その際に減免措置があると交流がすすむので、リニューアルを機にそういうこともすすめてほしい。
中村	学校教育の中で、学年に応じてそういうことができるとよいと思います。ほかによろしければ、令和3年度の事業計画についてお願いします。
富樫	<p><b>(2) 令和3年度の事業計画等について</b></p> <p>まだ新型コロナの影響もあって不確定な部分がありますが、特別展の開催と、その関連行事を予定します。まず、特別展関連行事の前倒し企画として4月に文化財の3件のサクラについての見学会を予定。定員等の詳細は調整中です。その際、町の文化財調査委員の方や、あるいは地元で保存に関わっている方に協力をいただきたいと考えています。8月の夏休み企画は、内容についてまだ具体化していません。特別展は9月末から11月末を予定し、文化財調査委員会や展示ボランティアの方々、可能であれば協議会委員の方々にもご協力をいただきたい。関連行事として「苔翁寺山門」、「縄文」、「町の成り立ち」の特別講演会、図録をテキストに簡易な形での15回程度の連続文化財講座を開催し、参加者にはスタンプを提供。刊行物としては今年度内にできる図録のほか、パンフレット等を用意。冬期間は3回の歴史講座、1回目は特別展のこぼれ話を中村会長に、そして小山と富樫の担当で1回ずつを予定。星空観望会は、年度内に天文運営協力員の方々との会議があるので、その検討結果を踏まえて来年度の予定を立てていきたいと思っています。</p>
中村	ありがとうございました。資料4に今後5か年の計画が書いてありますが、来年度の特別展は、もうその一環であるとのこと。とくに令和3年度は、「文化財展」を中心にいろいろな計画が立てられています。いかがでしょうか。
委員	課題に関連づけたとても魅力的な計画になっていると思います。そのうえでひとつ提案です。夏休み企画として、小学生を対象にした溝口会館でのバックヤードツアーです。以前6年生の娘と5年生の息子を連れて見学させていただいたとき、すごく面白くて、そこに消防のポンプをつけて出動していたとか、500年前の鍬だとか、目を輝かせて喜んでいました。溝口会館のあり方を検討してゆくうえでも、現状を知っていただく上でも意味がある。貴重なものがあるので、1回あたりの人数とか、高学年に限るとか、配慮は必要だと思いますが、生活の中の道具も町の文化財として貴重であると思います。
富樫	それは探検ツアーという感じでしょうか。

委員	<p>そうですね。普段立ち入れない場所に入れるというだけでも、子どもにとってわくわくする経験になると思いますので、ご検討ください。</p>
委員	<p>関連して、20周年記念に向けたひとつの視点として、考えてもらいたいですが、これからの20年を考え、将来の町を支えていく子どもたちのことを考えた講座があってもいい。溝口会館の見学もよいですが、歴史講座に子ども向けの内容も考え、この町をどのような町にしていきたいか問いかけるような講座を。子どもたちが宝です。こんなすばらしいところに住んでいることを知ってくれば、都会に行っても彼らは必ず帰ってきてくれる。私の鮭理論です。ふれあい館が率先してそのことを伝えてほしい。子どもには親御さんが付いてくるので、親御さんにも共有してもらえ。そういう歴史講座を考えてほしい。</p>
富樫	<p>来年度の講座にすぐに入れるということではなくて・・・</p>
委員	<p>そういうことではなく、企画の大きなポイントとして考えてもらいたい。子どもたちがこの町を担っていくような視点で、歴史と自然を体験できるように。</p>
委員	<p>体験というキーワードで思い出したのですが、娘は昔の機織り機がとても気に入って、息子も喜んでやっていましたし、機織り体験は継承という意味ですごくいいのではと。</p>
中村	<p>この町には景観上すばらしいところがたくさんある。町の景観計画の資料を企画課で見せてもらったら、かなり斬新な考え方をすすめているなと思いました。自然の良さというだけではなく、これからもこの景観を皆で作り上げていこうという発想がありました。30枚もの写真で紹介されている場所には、私も知らないところがいっぱいある。同じように、今回33点の文化財をまとめてみて、私自身がその半分くらいしか知らなかった。それを考えると、子どもだけでなく、親子で再発見していくことによって、郷土愛にもつながり、自分たちの生活を耕すことにもなる。できれば景観と文化財とをセットにして、親子で巡って歩く、その先導役を歴史ふれあい館がやっていったらいいと思いました。</p>
富樫	<p>景観計画については、町はその計画の素案をつくったところです。それに対するパブリックコメントを町民に募集しています。素案の内容等については、町のHPで見ることができます。意見提出の締切は今日まで。</p>
委員	<p>令和3年度の事業ですが、コロナ対策として事業を止めるという選択と、対策をしたうえでやるという選択があると思います。子どもたちについては、コロナ対策で活動などが押さえつけられてきているので、将来への影響が心配です。なるべく事業を実行する方向をもって対策を検討していただきたい。もうひとつは、「縄文の話」の特別講演会ですが、縄文だけより古代を含めた内容にさせていただいたほうが話が広がるのではと思いますのでご検討を。</p>
中村	<p>ありがとうございます。星空観望会のほうもぜひ検討していただきたいと思います。</p>
委員	<p>感染防止対策をしっかりやって、ぜひ再開できるようにしていきたいと思います。</p>

委員	<p>今三水小では6年生が竪穴式住居を作り、火を起し、赤塩焼の器で自分たちが育てたお米のごはんを食べる活動をしています。以前牟礼西小で竪穴式住居をつくり、のちに成人の日にそれを元に戻したということもありました。鍛冶体験やあかり体験もあり、そういう積み重ねがある。リニューアルの中にも、そういう体験を含めてほしい。</p>
中村	<p>令和3年度に限らずすでにお中長期的な話も出てきています。資料4の方も併せて説明していただき、検討していただければと思います。</p>
富樫	<p><b>(3) リニューアルに向けた方針案について</b></p> <p>資料4は、前回お示した「拠点づくり構想」をもとにしており、これは令和3年度の予算要求の際の説明資料にもなっています。このほど、この構想について、町の地域振興基金による事業という位置付けになりました。今後数年にわたる予算がこれで保証されたというわけではありませんが、来年度の特別展を含めた取り組みが、町の地域振興という枠組みの中ですすめていけるようになりました。これまでの構想だけの段階から、一歩具体化してきたこととなります。内容は前にお話したとおりで、実質的には令和3年度から開始し、町制20周年記念となる令和7年度に合わせて館のリニューアルをはかることとなります。資料8 ページのイメージのように、令和3年度からの特別展を積み上げ、それを土台にして、改修と関連事業を含めたリニューアルを令和7年度に実現する方針です。特別展を核にし、そこでご協力をいただける人とのつながりをつくり、調査研究も深めていくこととします。ステップ①は来年度の特別展ですが、ステップ②にあたる再来年の特別展についても、今から考えておかないと準備が間に合わないことになるので、候補を挙げてあります(資料参照)。</p>
中村	<p>資料4に合わせて検討していく中で、ステップ①②③と特別展を企画していきながら令和7年のリニューアルにつなげていくということです。発想そのものが三水と牟礼と別々になっていた文化財を町制20周年に向けて一つにしていくと同時に、展示構想も三水地区のものを大きく取り上げていこうというところが根になっています。リニューアルは展示だけのことではなく、体験学習とか子どもたちの活動とどう関わっていくか、大きな構想を含めて考えていかなければと思います。その中身を皆さんとさらに詰めていければと思いますが、いかがでしょうか。ふれあい館が管理している古文書等がたくさんあり、古文書研究会もあるわけですが、地域に眠っている古文書等を中長期的に資料調査していくというような計画は何かおありですか。</p>
委員	<p>教科書に書いてあることより、眠っている地域の資料が大事と感じています。私に関わっているのは、古文書のある部分を学習していく段階です。素人なので、現状では眠っている古文書を掘り出していくところまではやっていない。構想については2つ提案がある。ひとつはSDGsを取り入れ、誰一人として取り残さない意識でやってほしいこと。ユニバーサルデザインにより、あらゆる利用者の立場に立った視点で館の運営や方針を立て、結果が見える取り組みをしてほしいこと。もうひとつは、実現可能かどうかはわかりませんが、人が必要です。行政へのお願いですが、地域起こし協力隊の人たちを歴史の分野でも活躍してもらえないか。先日長野市の協力隊の交流会に出たんですが、皆やる気があり、配属先に定住したいと思っている人もいました。そういう地方に魅力を感じている人たちの力で、古民家を守りつつ、そこを利用した活動をしてもらえば、と思います。移住してきた人たちには、これから変われる若い人たちがいます。そういう人たちを支援しながら、歴史等をまとめていくことができればと。</p>

委員	<p>東京から7年前に移住してきた者にとっては、茅葺屋根の古民家などが魅力で、そういうものを残していくには長期的な行政の力も必要です。宝として地域の皆で守っていければと思います。リニューアル構想については、展示の核を絞ることが大事。信濃町であれば一茶とか、ナウマンゾウとかにピントが絞られています。飯綱町には素敵なものがたくさんありますが、絞れていない。私としては、少し昔の、古き良き時代の里山の暮らしに魅力を感じます。何を魅力に感じるかは人により違うと思いますが、それを町の皆と一緒に考えていく5か年にしてはどうか。何を宝として発信するかを、ふれあい館だけで決めるのではなく、ふれあい館が提案・提起・紹介をしたうえで、町の人の反応や声を聴きながら、本当の宝は何かをさぐっていく5か年にしてほしい。</p>
中村	<p>思いが伝わってきます。</p>
富樫	<p>さっき図録の話がありましたが、文化財調査委員長も言われていることですが、33件の文化財は、今後さらに町の宝を見つけていくための足掛かりにしたい。町の魅力がどこにあるのか、一緒に考えていければと思います。</p>
委員	<p>皆で考える、考えてもらうための工夫が必要だと思います。</p>
委員	<p>あらかじめ答えを出すのではなく、皆で答えをさがす取り組みを。これが町の宝だというのを、町の人自らが言えるようになるといい。</p>
中村	<p>前に、飯綱町は自然環境の面でもすごく住みやすいところだという話がありました。ここに住んでいる人たちより、外から来た人がそれに気がつくという話もありました。身の回りあるものを、そういう感覚で見る心が育っていないと、住んでいる人たちに向けて何か発信をしても飛びついてはくれない。そこを開拓していくために、私たちが何を提案できるかということになってくる。ここまで、よろしいでしょうか。</p> <p>では資料5に入りたいと思います。今回は3階展示を見ていただきましたが、十分に検討する時間がありませんでした。</p>
富樫	<p><b>(4) 施設・展示改善検討等 (館内の改善点洗い出し)</b></p> <p>資料5は現時点で思いつく部分をまとめたものなので、改善点等はこれに限るものではありません。リニューアル構想とは別次元のもっと身近なところで、もっと改善できるのではという観点での提案です。施設面では、収蔵スペースの不足という課題、夏場の3階見学環境の改善、入り口の構造的な入りづらさ、入り口の「靴脱ぎ方式」についてはメリットとデメリットがあり、足元のおぼつかない方にとっての安全の問題もある。またここが何の施設なのかが、玄関前まで来ないとわからないという看板の問題。あと館に親しみをもってもらうためにマスコットキャラクターなどを考えてもいいのでは。展示テーマについても、1階は北国街道と牟礼宿に特化していますが、補足として宿場と街道にもっと現在の視点を入れたらどうか。あるいは全国いたるところで映像展示が増えている中で、レトロなジオラマそれ自体が価値ある物になっているのではないかと。小ホールについては、本棚を設け、学習スペースや相談や交流の場としてもっと活用できないか。2階にある原始古代から近現代までの展示では、北信濃の歴史と暮らし、文化という面でもっと拡げることができるのではないかと。左下の☆印には、前回会議で話題に出しましたが、1</p>

階が牟礼宿の展示なら、2 階は三水地区の展示、くらいのつもりで、思い切って三水地区の文化財や歴史等に焦点をあてた展示があつていいのでは。山城は矢筒城に限るものではありません。用水の歴史、食と暮らし、等のテーマもあります。町の発展については 1990 年代までの説明で止まっているので、更新が必要です。その次が前回ご覧いただいた 3 階部分の展示です。元々は、大きな窓と地形模型、季節の歳時記やことわざの説明、それに隕石展示と天体観測室への入り口がありました。前の会議で出た「五岳の眺望をもっと生かして」という意見を受け、山々の解説パネルを新設し、身近な景観から町の成り立ちや日本列島の自然史へ、さらに隕石から宇宙、天体観測室へと展示につながりをもたせました。現在の地形模型の範囲は三水地区の一部を欠いていますが、これをつくり直すとなるとけっこうな費用がかかります。現在その見積もりを依頼し、作成方法を問い合わせ検討しているところです。ふれあい館 3 階が、こういう場所であるということ、今後 PR していかなければと思っています。

中村

この 1 階～3 階の展示を大きく変えないことには、やはり飯綱町の歴史ふれあい館にはならない、さりとて大々的に変えるには大変な経費と人力が必要になります。このくらいであれば出来るかなというところから手をつけていこうと。幸い、この五か年に向けては、潤沢とはいかないまでも、予算化について今まで以上に付けていただくよう努力をいただいています。なんとか皆で知恵を出し合いたいと思います。

委員

前回、「ストリートミュージアム」として、街中にふれあい館の資料を紹介してもらったということ、思い切って三水地区のコーナーを設けてはと提案させていただきました。それにプラスして、歴史ふれあい館を飯綱町のビジターセンターにしてはと思います。来た人に、おいしいそばやリンゴが食べられるところ、こんな眺望が見られるところなどを紹介できるとよい。たとえばふれあい館の 3 階に行けば、眺望と面白い情報があつて、いろんなコースを作り、歴史が好きな人はここ、食べたい人はここというようにして、30 分コース、半日コース、1 日コースとか、子どもさんを連れて半日くらい町の中で遊べるという観点で。信濃町では、博物館から行けるいろいろなコースを作っています。ポイントごとにあまりお金をかけない看板があり、モニュメントをつくり、見て回れるようにしてあります。そういう観光面でのインフォメーションセンターの役割もつとよい。それらの情報の裏には歴史があり自然があると、ちょっとしたうんちくも入れてみる。20 周年に向けて、ここがそういう施設になれば、もっと注目され、館の位置づけも明確になると思います。展示にはあまりお金をかけなくてよい。1 枚の地図があり、ここは〇〇コースで、こう回ればいいとか、あるいは商工会提供の割引券があればもっといい。食べもの、遊び、体験は重要です。ここに来た人たちが、周辺でも遊べる場所があるといい。今、安全に子どもが遊べるような場所が少ないんです。北国街道牟礼宿については、図録にもなっていますが、今まで質の高い特別展をやっけてられています。そういう特別展のエッセンスを展示に入れてもらえると、今までやってきたことも生かされる。国立歴史民俗博物館に、この図録が掲示されていて、この周辺ではここだけでした。2 階ではもつとリンゴの展示を。アップルミュージアムとの連携もあると思いますが、なぜこのりんごはおいしいのか、地形や地質とも関係していると思います。

中村

飯綱町は「りんご日本一」というキャッチフレーズをもっています。ところが、生産量なら青森県だし、「日本一っていうのは何のことだい」という話があつて、そのときに農家の人が言うには、「まちがいなく味だ、おいしさだ」ということでした。その「おいしさ」をもっと具体化できたらいい。土地の条件とか、気象条件と併せてそれが紹介できると、歴史ふれ

<p>委員</p>	<p>あい館の意味も広く深くなると思います。</p> <p>関連してですが、子をもつ親としては、昔あそびでも、赤塩焼き体験でも、説明を見たり聞いたりするだけでなく、実際に体験できることがあるといいと思います。牟礼宿関係では、明治天皇がおいでになったときに食べたお膳の再現も興味深いし、そういうことも展示に取り入れてほしい。あと、せっかく考えていただいたことなのに水を差すようで申し訳ないですが、オブジェとかマスコットキャラクターというのは、最近いろんなキャラクターがあふれすぎていてあまり新鮮味がない。貴重な時間やエネルギーは展示の充実や内容のほうに向けていただければと思います。</p>
<p>中村</p>	<p>5 か年計画に盛り込んだらどうかというアイデアをいただいています。展示のリニューアルとか、いろいろなアイデアを、ふれあい館職員が全部リードして計画していくのは大変なことだと思います。何か分野別にでも分かれて、住民の人たちが分担して自主的に考えて、そういうシステムはつくれないでしょうか。ボランティアといいながらも、多少お金がかけられるのであれば、研究チームとして何人かでやろうとか、そういうグループを作れないでしょうか。</p>
<p>富樫</p>	<p>私が思うには、リニューアルのコンセプトとか、核になる展示を絞るとか、その段階からたくさんの方が集まると、どうしてもあれもこれもとなってくるので、常に全体の調整をどうするかについても考えていないといけないと思います。人を集める前に、今日の検討にしても、こういうことが検討されているということをもっと多くの人に知ってもらおうこと、そしてそれを見た人に気軽に意見を言ってもらえるようにするところから始める必要があると思います。そこから、個人的に興味があって、協力してくれそうな人がいれば、より実践的なところで分担し、関わっていただくという風に考えてはどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は逆の意見です。いろんな人が集まればいろんな意見が出る。今は多様化の時代なので、それを避けたら何も変わっていきません。ワークショップとかを何度も繰り返していい方向を見出す手法をとれば、できるものがちがってくる。固定概念がある人たちがやっていると、そこからはずれた人たちは結局取り残されてしまう。広く集めておいて、ワークショップをやって、企業でやっているように合意形成を繰り返していくのがいいと思います。ブレインストーミングや KJ 法をやったりして方向を決めていくプロジェクトチームをつくって。</p>
<p>富樫</p>	<p>ご理解いただきたいのは、「多様な意見が集まると困る」と言いたいのではなく、多様な意見を集めるときには、意見を集めながらも、それを最終的にまとめていく役割の人がしっかりしていないといけないということです。そこをしっかりさせた上で、ワークショップ等の機会をもてればよいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>いろんな部分からワークショップをやっていくのがいいし、ファシリテーションが必要だし、はずれた人も納得できるようにやらないといけない。いろんなところと協力することはとてもいいと思いますが、課題もあります。観光案内所や、東西のコネクトや道の駅もあって、いろんなところと連携しながら、となれば、今の歴史ふれあい館の 2~3 人の職員だけでは調整と企画をするのもむずかしい。そのところで、今日みえている教育長さんに、もっと行政としてできることを考えてほしいと思います。歴史関係は何でも歴史館でとなると館長さんも小山さんも大変で、研究もできなくなってしまいます。行政的な部分では</p>

<p>町<small>の</small>企画課とか教育委員会が囃んで、やったほうがいい。</p> <p><b>小小学芸員</b></p>	<p>自分たちの活動が、歴史ふれあい館の展示に反映させられるようなグループづくりとか、古文書の会の方々は今やっているところで、もっと展示に生かして提言してもらえるように、というようなことはいくつかあります。さっき中村会長が言われたのは、その部分で、歴史ふれあい館が指揮棒を振ることで、分野分野で質のいい展示ができないかということでしょうか。</p>
<p><b>中村</b></p>	<p>簡単にいうと、今後の5か年計画の中で、この館の活用方法について運営委員会のようなものを立ち上げ、人材を募集するとか、グループごとに実現化していけるような実働部隊をつくるかをしないと、学芸員がパンクしちゃうのではということです。</p>
<p><b>小山</b></p>	<p>開館からこれまでのことを振り返ると、体験という面でも、体験会を担う気持ちのある人たちが館を建てるどころから加わっているかどうかで全然違うと思う。この施設はそういうスタッフがいない状況からスタートしました。唯一あったのは天体観測の皆さんで、この館が出来たとき、星に関心のある人たちに協力依頼をして来ていただいた。常設展示については、それを説明できる人はそれをつくった郷土史研究会の人たちしかいなかった。その説明をしろということで、私がここに配属され、いろいろと教えてもらいながら展示解説をしてきたわけです。そういう方々が退かれてしまうと、当時の心を継承していくグループの人たちはいない。今、古文書で集まっている方々は、まだ初級クラスなのでこれまでのことを熟知されているわけではありません。今調べているものを展示に生かすというのは、まだむずかしいと思います。リニューアルと一緒に関わっていただき、展示された暁には、そういう人たちが内容を伝える役割を担ってくれる、そういうスタートができればいいと思います。機織りだったり、食だったり、伝統文化や歴史、自然だったり、そういうグループがいろいろあるのは承知しています。そういう皆さんが、館のために集まっただけなのがこれからの話です。お願いして集まっただけをを目指すのか、それとも不可能であるかもしれないけれどもあるコンセプトをもとに、それに沿って集まってもらい、組織としてスタートしていくのか、それによって全然違うものになっていくと思います。20年前にはできなかったことですが、自分たちが熱意をもってこういうことをしたいと思っている人たちが集まってくれば、体験会などの運営はやりやすい。一方、もしそうなると、展示はその人たちの中で決まってくる。よし悪しがあると思います。期限を切った中で、どう進めるか、あるいは住民の活躍の舞台をどうつくっていくのか。前に美術展をやりましたが、それをつくるときに一人も画家を入れなかったことがあり、館の絵を展示するための設備もなくて、うまくいかなかったことがありました。</p>
<p><b>富樫</b></p>	<p>実は、今小山さんが言われた難しさを解決するために、年度ごとの特別展を企画しつつ、その中で人のつながりをつくり、それらを積み上げてリニューアルに結び付けていくという計画にしています。最初に人を集めて方向から決めていくには、それをコーディネートする部分に非常に大きなエネルギーを必要とします。そういう意味で、ある程度これで行こうというコンセプトを示しつつ、興味のある人や関わりの深い人たちをお願いをしながら、一緒につくっていく。そして場合によっては、途中でコンセプトそのものにも修正を加えていく。そういうやり方を目指したいと思っています。</p>
<p><b>中村</b></p>	<p>はい。他によろしいでしょうか。</p>



委員	<p>小学校でのコメ作りというのは県内の学校でもけっこうやっていますが、りんごの授業は他ではやっていないことなのでぜひ続けてほしい。それに加えて、三水小では、三水の名前の由来である用水についての学習があります。また牟礼のほうは小玉用水もありますが、どちらかというと「牟礼宿」を中心にした学習です。そのことは各学校の特色ということでいいと思いますが、最終的に中学校で一緒になってきますので、それを今度は町の歴史として、歴史ふれあい館を中心に共有できる形があると、まとまった学習ができていいのではないかと思います。</p>
中村	<p>リニューアルのためのグループを募集するという話もありますが、今までにあるグループでも歴史ふれあい館とは別に自主的に活動してきてくださっているわけです。すでにあるグループでリニューアルに協力していただけるグループは、古文書の皆さんもそうだと思います。このリニューアルに向けた5か年の中で、いままでのグループの人たちの力を借りる、あるいは子どもたちに活用してもらうために学校の先生たち何人か来ていただいて、アイデアをいただき実現していくとか、すでにあるものを利用したり、新たに検討を願えないかと集めたり、その両面から組織を作っていくと、継続的にグループに人を入れていくことが可能になると思います。私たちだけで苦勞し、全部やっていくのではなく、そういうグループの人たちに依頼をしていけるような体制がつくられればいい。この会議は、そのための大元の検討です。できたら、館長さんをはじめ、5か年にわたる方向をしっかりと具体化していただきながら、細部にわたってどのように人を集め、そういう組織をつくれればよいか、というのが今日の協議会の目指すところだと思います。</p>
委員	<p>利用者は使いやすさとか、興味や面白さとかを求めている、専門家が考えているところとはミスマッチがあったりします。子どもとかお年寄りとか、そういう利用者の意見を拾いながら専門家がまとめていくという感じで、ワーキンググループやプロジェクトチームが実動できるようにしていく。友の会とかサポーターというのも、実際は集まりにくいので難しいのですが、ピックアップした団体や個人や利用者の話を聞いていけばよいと思います。話は変わりますが、マスコットキャラクターとかモニュメントとかはいらないのではという話がありましたが、そういうのを市民参加でつくれば、この館が市民のものになるようにも感じます。美術学校とか清泉学院の子どもたちとかと、材料費くらいをかけてつくっていけばいいと思います。景品として、私は缶バッジが好きですが、それをつければ歴史館に来たというPRにもなると思います。</p>
中村	<p>だいぶ話が進んできましたが、このあたりでよろしいでしょうか。先ほど話に出た「歴史ふれあい館とは」に凝り固まるのじゃなくて、もっと情報の発信源として、あるいは観光案内も含めたそういう情報基地にしていくという考え方は、町の産業観光課とか観光協会とか、あるいは企画課でやっている景観計画とか、そういう横の組織を総動員していくような形をとっていけば実現できるのではないかと思います。歴史に関することはここ、みたいになっているが、景観を生かしてコースごとに町を巡り、飲食店も巻き込めば、それこそいい計画が立てられるのではないかと思います。</p>
委員	<p>うちでは失敗したのですが、読み取りコードをつくり、そこに行けば説明がスマホで見られるようにし、博物館に来ればその詳しい説明があって、全部を回ると景品が出るというようなのを10年くらい前に提案しました。ただし、それは提案が早すぎて、やろうとするとすごいお金がかかるということで、上からだめといわれ、それ以来やっていない。もしそ</p>

	<p>のときにやれていれば、先進的だったと思う。ここでこういう化石が見つかっていて、ここでこれが出ていてということがわかればとても面白い。ちょっとお金がかかるかもしれませんが、町づくりの全体の中でこういうことをやれば、他からお金も来ると思います。</p>
馬島	<p>歴史のことは、ただ歴史の専門に入ってしまうということではなくて、飯綱町全体の問題でもあります。たとえば歴史ふれあい館に行くと産業の案内も、観光も、飲食店の案内もあると、今度は直売所に行くと、買い物の人にも歴史ふれあい館のこともわかる、というそういう総合的なものをつくっておいて、そこに〇〇コースというようなものもつくる。それぞれに興味関心があり、そこに選ぶことができるような総合的な情報がある、というようにやっていければと思います。</p>
委員	<p>今情報を得るのはスマホの時代ですから。</p>
委員	<p>町でも、QRコードで情報が見られるようなのが、もうあります。</p>
委員	<p>そういう実績があるのなら、それを広げていけば。</p>
委員	<p>SNS では、最近ではアクセス数をどうやって増やすかが課題になる。</p>
中村	<p>協議会では、こういう話ができればいいわけで、それを具体化していくときにはまた別組織の中でさらに細かなところをやっていかなければならないと思います。この歴史ふれあい館をどうしたらいいかという視点で、今後も年に何回かの会議を通してこうした議論をしていきたいと思っています。来年度に向けて、今日出していただいたアイデアを具体化していくための組織づくりをやっていったほうがいいと思います。今日は、そのようなところまででよろしいでしょうか。いい意見がいっぱい出ていますので、館長さん、今日の記録をまたまとめていただきますようお願いいたします。それでは(5)にうつります。</p>
富樫	<p><b>(5) 協議会委員の再委嘱について</b>  現在 8 名の方に協議会委員の委嘱をさせていただいています。協議会は来年度以降も続いていきますが、今の委員の方の任期が 3 月いっぱいです。今期までの委員の方々にはなるべく継続でお願いしたいと思っています。ただ現時点で、小林浩道委員には公民館活動との連携というお立場で委員をお願いしたこともあり、今度公民館長が小林さんから新しい方さんに代わられる予定をお聞きしていますので、新年度の委員は中島さんに代わっていただくことを考えています。委員委嘱については改めて個別にご連絡しながら、お願いしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>今日の会議が終わった後で、きちんとお話ししようと思っていましたが、じつは家庭の都合で 3 月をもって飯綱町から実家の方へ転出する予定です。急な話で申し訳ないですが、私自身はやりがいをもって協議会委員をつとめてきました。もし町民でなくても委員として継続ができるものでしたら、継続したい気持ちはあります。また、小学校に熱心な先生がおられますので、そのような方に代わっていただければというようにも思います。</p>
中村	<p>みなさんとご一緒に来年もと思っていましたが、それこそ立場は委員ではなくなっても、今後も関わっていただければと思います。小林委員から、一言お願いします。</p>

小林委員	<p>私は今後も町にいますので、一緒に何かやろうということで関わらせていただければと思います。体験ということでは、公民館の「いいつなっ子クラブ」でも歴史を学ぶ機会がないようなので、ぜひやれるようにしてほしいと思います。</p>
中村	<p>小林さんには、「飯綱今昔物語」だけでなく、今は宮本さんと「食」のテーマでも執筆をしていただいています。今昔物語は近隣の町村もすごく関心をもってくださっています。小林さんには、今日の話にあったようなガイドブックについてもご協力をいただけると思いますし、今後もぜひよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。では、その他連絡事項があれば。</p>
富樫	<p><b>(6) その他、連絡事項</b></p> <p>3月に「歴史ふれあい館だより」を発行します。そこで、この協議会で、こういうことが話し合われているということについても、紹介をしていきたいと思います。また来年度は4回の協議会を予定し、そのうちの1回は今年度実施できなかった他事例の視察を行いたいと思います。また日程調整等、ご連絡をしますので、よろしくお願いいたします。こちらからは以上です。</p>
中村	<p>ありがとうございました。では進行をお返します。</p>
富樫	<p>今日も盛りだくさんの話がありましたが、最後に教育長から一言をお願いします。</p>
馬島	<p>いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。なるほどと気づかされることがたくさんありました。大変強く思ったのは、歴史ふれあい館のコンセプトですが、歴史というのは、過去が現在に結び付いているということが見えなくてはいけないと思います。それは必然的に未来につながっていくこととなります。それが見えるような発信をしなければ、ということを改めて感じました。古いことが古いで終わってしまい今と結びついていなかったら、それは消えてしまう。</p> <p>不易流行という言葉もあるし、時代を通して生き残っていく力のあるものには真実があります。その真実の部分伝えていくのが歴史ふれあい館の務めであろうと思います。来年度もぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
富樫	<p>これにて閉会といたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">(閉会)</p>